

研究テーマ

聴覚障害のある子どもの言語発達支援の方法と他の発達障害への適用について

—聾学校から特別支援学校へ—

はじめに

● 鳥取聾学校のセンター的役割

地域支援部の言語発達支援の直接指導の経験から

文字の読み書きに遅れがみられる子どもとの出会い

軽度発達障害への学び

そこで

仮説「聴覚に障害がある子どもの言語発達を促す支援の中には、他の発達障害のある子どもの言語発達の支援へ適用できるヒントがある。」

聾学校の/ウハウハ

言語発達を促す支援

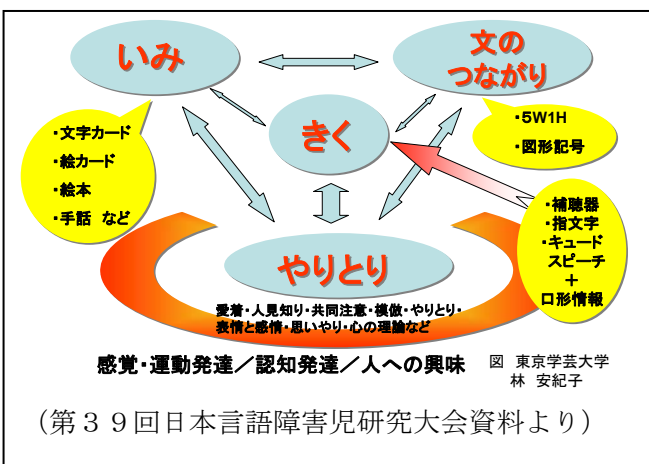
発達障害とは

発達障害・軽度発達障害と
アセスメント

支援の方法は

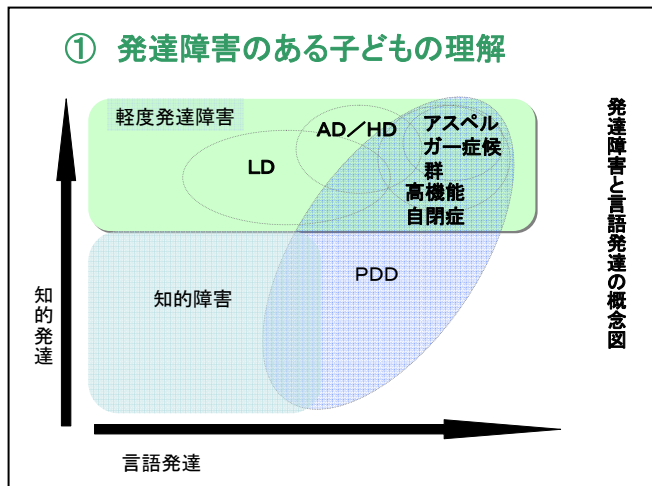
実態と支援

(1) 聴覚に障害のある子どもへの支援



- ① きく力を育てる支援
音韻情報の記号化、正しい音の聞き分け
- ② やりとりできる力を育てる支援
親子関係作り、やりとり遊び、象徴遊び
(ごっこ遊び)、集団遊び(ルール)
- ③ いみ(語彙)を広げるための支援
絵カードによる名詞の読みと意味理解
動作絵カードによる動作学習
抽象語、感情を表す言葉の絵カードによる学習
- ④ 文のつながりの理解を育てる支援
絵カードによる能動態・受動態の学習
絵カード又は動作を使った自動詞・他動詞の文作り
絵カードと対応する文での振り返り学習
言葉プリントを利用して文の正しい理解の学習

(2) 発達障害のある子どもへの適用について



発達障害のある子どもを知的発達と言語発達の側面から見ていくと左図のように捉えることができる。

一般的に言語性LD傾向にある子はその知的発達に比して、言語発達面でのさまざまな遅れが認められている。

その他のいわゆる軽度発達障害のある子どもでは、他とのコミュニケーションの面で特徴が認められる。

このような子どもに対して、言語面と認知面でアセスメントを実施する。

アセスメントの実施
WISC-III、K-ABC、ITPA 等

実態

- 1 音の正確な聞き取りが難しい場合
- 2 聞いた言葉をなかなか覚えられない場合
- 3 言葉の意味を理解することが難しい場合
- 4 聞いた内容を記憶にとどめることが難しい場合

②適用できる支援について

- 1 聴覚認知を高める支援をする
- 2 絵カードを利用して、視覚的に意味や状況をイメージできるように支援する。
- 3 動作で示したり、様子を表す絵にしたりする。
- 4 内容が見える形にする。

そして

- ① 聾学校では「きく」力（音形学習）と他との「やりとり」（コミュニケーション）の力を育てる教育がされている。
- ② 特に言語性LDの特徴がある子に適用できるか、適用できるヒントが得られた。
- ③ 言葉の意味理解の力を広げる支援として、音韻とモーラに意識して言葉の一字一字の音と文字を対応させて有意味のひらがな単語を読めるようにした。

今後は

他の障害種の発達支援の方法を学び、今まで以上に一人ひとりの児童・生徒の実態に適する支援の実践が必要。

おわりに

言葉の音形を的確に捉え、一字一字にこだわる指導を通して、その後の言葉の意味理解の広がりにつなげる支援や母子関係のやりとりをスムーズにできるようにする支援の重要性を知ることができた。

できないことをできるようにする支援より、できることつまり認知特性で強いとされる特性を生かしたり、興味のあることを糸口としたりして、弱いとされる部分を引き上げていくことの大切さも感じた。